

模擬診療記録を使って、医療専門職を育てませんか？

教育用電子カルテ共同利用協議会・模擬診療記録研究会

国際医療福祉大学・大学院

電子化された診療情報を十分に活用出来ていますか？

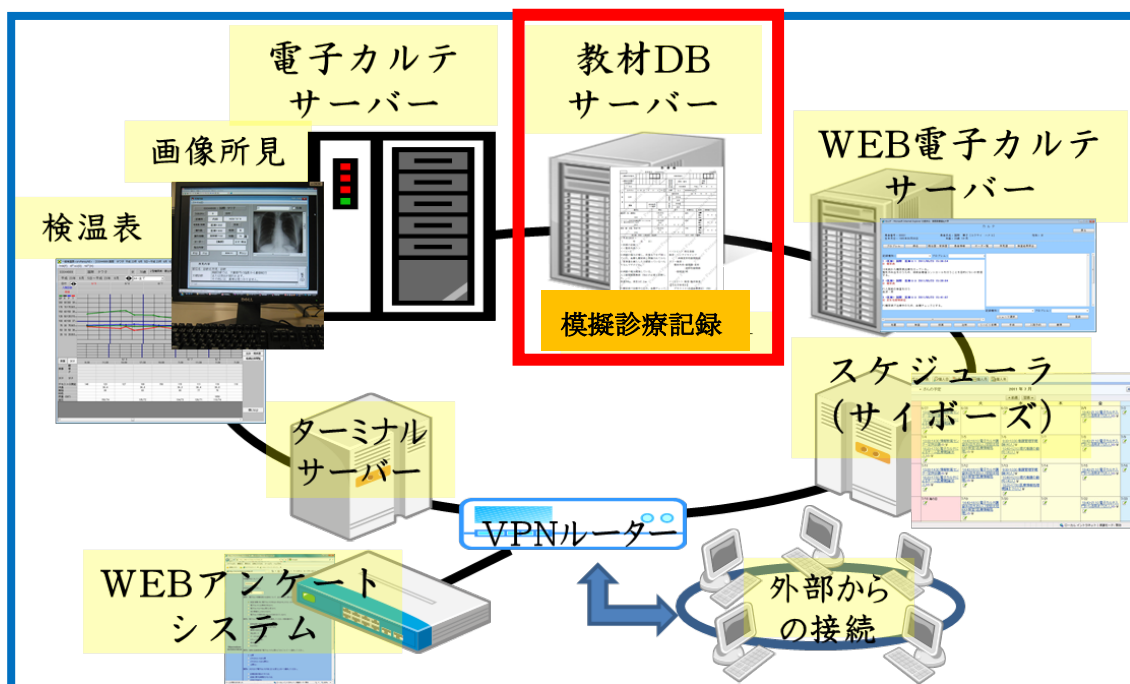
十分に活用するには、その活用法を学び、いろいろと試みてみる必要があります。

診療情報管理士や医師事務作業補助者、医療専門職をめざす学生などの教育に、「教材として利用できる実際の診療記録があればいいなあ」と思ったことはありませんか？

実際の診療記録や診療データから作成した“模擬診療記録”は、疾病コーディング教育や診療記録作成・読み解く力の養成や診療報酬請求業務などの教材として貴重な資源です。また、診療記録のテキストマイニングや医療事故防止のための研究材料にもなっています。このような模擬診療記録を 1 施設、1 教員がそろえることは現実には困難なことです。

教育用電子カルテ共同利用連絡協議会 (<http://ehr-renkei.iuhw.ac.jp>) では、複数の患者の模擬診療記録をデータベースに蓄積し、改良を加えながら教材として少しずつ充実させてきました。また、この教材データベースには、退院時サマリーや診断書などの書類作成機能も備えています。そして、ネット経由でどなたにも使っていただくことが可能です。

模擬診療記録を含んだ教材データベースは、下の図に示すように教育用電子カルテシステムの一部で、電子カルテと合わせて使用することが出来ます。どのシステムもインターネット経由で同時に最大 50 人まで使用できます。関心がある方はホームページ (<http://ehr-renkei.iuhw.ac.jp>) をご覧ください。



教材データベースでどんなことが出来ますか？

教材として開発された模擬患者診療記録のデータベースです。

専門学校、大学、大学院さらには、病院で働く医療専門職の教育、診療記録を題材にした研究に活用できます。

電子カルテと組み合わせるだけでなく、単独でも十分教育に用いることが出来ます。複写・作成・編集機能を用いて、診療記録の書き方や監査、入院診療計画書、退院時サマリー、診断書や報告書などの書類作成訓練にも使うことが出来ます。経過表作成ツールを使って、診療記録を読み取る力、診療の流れ、診療報酬請求業務やチーム医療などを学ぶことが出来ます。

また、電子カルテ利用者コードや保険情報も格納されているので、職員カード、保険証などを学生の数だけ作成できる機能も持っています。

仮想専用ネットワーク（VPN）を利用して接続します。

教材データベースはどのように使いますか？

1. 診療業務の流れを学ぶ

模擬診療記録をシナリオにして、新規患者の登録（カルテ発行）から、受付、診察室における診療、検査、処方、会計まで、いろいろな職種を体験して、病院業務の流れを理解します。講義だけに比べて臨場感があり、業務を体験することが出来ます。病院実習前の学習がおすすめです。

2. 診療報酬請求業務の学習

診療報酬の算出、請求、レセプト作成・演習教材になります。教育用電子カルテ・オーダエントリシステムに入力した伝票に対して、自動入力後、修正や追加を行う作業、マスタ表の維持管理なども学ぶことが出来ます。

3. 職種間連携やチーム医療を学ぶ

グループ学習やロールプレイ授業を通して、電子カルテによる情報共有を実感し、専門職種役割を理解することができます。診療記録から経過表を作成することにより、チーム医療をより理解することが出来ます。

4. 診療情報管理士・医師事務作業補助者の育成

いろいろな職種の模擬診療録から、診療記録を読み取り疾病コーディング、経過表作成、サマリーの作成と監査、診断書などの書類作成などを学びます。また、電子カルテに入力することにより、蓄積された電子カルテ内の情報収集能力などを養成します。

5. 専門職用の模擬診療記録を使って、業務の疑似体験をする。

いろいろな職種が関連する模擬患者が登録されているので、対象とする医療専門職用の診療記録を使って、業務を電子カルテ上で疑似体験することが出来ます。その過程で、業務内容を理解したり、電子カルテのさらなる活用法なども考えさせて、たとえば、テンプレートの作成なども行うことが出来ます。

